第 74 回　美都地域協議会				
開 催 日 時	平成３１年　３月２８日（木）　午後１時３０分～			
開 催 場 所	美都総合支所			
委員出席状況	委 員 総 数	１０名	出席委員数	８名
会議録署名委員	潮　榮 委員　・　小川　美知子委員			

【協議事項】

【意見交換】
・平成 31 年度施政方針について（資料 1）
【報告】
・矢原川ダム建設事業について
・美都温泉について
・美都分遣所消防車について（資料 2）
・地域コーディネーター活動報告について（資料 3）

	氏名		出欠	氏名		出欠
協議会組織構成員	会長	潮　榮	出	委員	草野和馬	出
	委員	梅津富美子	欠	委員	杉島逸朗	出
	委員	大石康人	出	委員	田中　綾	欠
	委員	小川美知子	出	委員	土佐則幸	出
	委員	木原元和	欠	委員	広兼重継	出
益田市	市長	山本浩章	出			
地区振興センター	東仙道	野村達也	欠	都茂	河野敏弘	欠
	二川	小原美智子	出			
事務局	支所長	藤岡　寿	出	地域振興課課長	加藤正良	出
	地域振興課参事	松崎　徹	出	地域振興課分室長（政策企画局・総務部）	淺野隆司	出
	地域振興課分室長（産業経済部・建設部）	石川健二	出	地域振興課分室長（教育部）	河本昭宏	出
	地域振興課分室長（福祉環境部）	中島純子	欠	地域振興課主任	齋藤千代子	出

次　　第	内　　容
1. 開　　会 2. 会長あいさつ	（会長）皆さん、改めましてこんにちは。第 74 回の地域協議会を開催します。 　皆様方には年度末で何かとお忙しいかと思いますが、出席頂きましてありがとうございます。本日の会議は市長さんにもご出席頂いております。後ほど 31 年度の施政方針を中心に進めていきたいと思います。市長さんもお忙しい中ご出席頂きありがとうございます。 意見交換の時間は 1 時間程度を予定しておりますので前置きはこれくらいにして進めたいと思います。 本日は ●欠席者：梅津委員、木原委員、田中委員 ●議事録署名者：潮委員、小川委員 早速ですが、市長さんに挨拶を頂きながら施政方針の説明をお願いしたいと思います。
3.　山本市長挨拶	（市長）改めましてこんにちは。今日は今年度最後の地域協議でございますが皆様には日頃から市政にご理解頂きまして誠にありがとうございます。今日は先日終了しました議会で発表しました施政方針について概要を述べさせて頂きます。そのあと意見交換のお時間もあるようなので、よろしくお願いします。
･平成 31 年度施政方針	お手元に施政方針（資料１）が配布されていると思います。段落に従いまして話をさせて頂きます。 　市長就任以来、市民の幸福の実現を最優先に進めてまいりました。人口問題に着目して人口拡大計画を作成し、またこれをベースにして益田市総合戦略を策定しました。また総合戦略の中でひとづくりに力をいれる、と決めましたのでそれを受けて地域向上構想をやってきたところです。 　施政の重点方針としては 29 年度から連携を重視することにして 30 年度は連携の進化ということをスローガンとしてやってまいりました。この連携の進化について平成 30 年度にあげられた成果をご紹介してみます。 　昨年６月に全日本自転車競技選手権大会が開催されました。また１１月にアイルランドのチームがトレーニングに来られた時に、２０２０年のオリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致を行いました。 　更に、企業誘致について言いますと新規の企業が昨年度２社。１社は５月に操業を目指しておられます、食品メーカーの会社です。今ファクトリーパーク内で工場を建設中です。他１社は電子機械や半導体を製造するための会社です。市内の空き工場を活用して、すでに操業を始めています。

	それから行政課題の解決に向けたＩｏＴの活用に関してもいくつか実証実験を市内で行って頂いております。 ひとつは市役所近くの水路に水計を６ヶ所設置しました。１０分ごとに水位を測って電波でデータを集めるという事業。 そして血圧、その他の健康に関わるデータを集中する「スマート・ヘルスケア推進事業」、これは秋口から始まっています。これに関連して昨年１０月に「一般社団法人益田サイバースマートシティ創造協議会」が立ち上がって一般社団法人が中心となって一緒に県がやっております。今後も色々と実証実験の範囲を広げてもらいたいと思いますし、市内の経済団体にも参加を呼び掛けています。 次にひとづくりについては、未来の担い手、しごとの担い手、地域づくりの担い手、この３つを具体的に進めておりますが、特に 30 年度は中学生の新職場体験を刷新しました。参加業者数が１２０社を超えました。また事業所によっては積極的に自ら企業内で事前研修を実施されるところもあったり、かなり受け入れ体制、企業さんの方の熱意も高まっています。事後アンケートでは参加した生徒の８割近くが市内に魅力的な事業所がある、と答えるように地元企業の魅力にも気づく機会となっています。 また、更生・保護に関連しまして益田市役所自らが可能な範囲で保護観察中の方を益田市の非正規職員として積極的に採用していこうと協定を、松江観察所と益田地区保護司会と益田市の三者で締結してすることとしました。 このように連携がいくつかの方向で進化をしましたので、３１年度については、この連携をさらに充実させ効果的に発信することを重視したいと考えています。 この「連携の充実と発信」に差し当たりましては３ページの中ほどに書いてありますが、ＳＤＧｓ技術。これは「国連持続可能な開発サミット」で採択された、持続可能な開発目標という国際的な目標です。このＳＤＧｓ技術を活用することによって市としては、日頃取り組んでいる課題を国際的な視野の中で見つめ直すことができます。また連携する関係者との間でも、ＳＤＧｓ技術という共通言語を使用するので、目標の連携することが期待できます。また、地域についてもＳＤＧｓ技術に合致する取組が課題解決に向けた自立的好循環を生み、地方創生の一層の促進に繋がります。 この連携の充実の発信に関して、先ほど申しましたＩｏＴについては、４ページになりますが市道の破損状況等を自動的にセンサーで測る、スマート道路モニタリング事業を本格化していきたいと考えています。また「ＱＱテクノロジー」といいまして、植物ミネラルが発するテラヘルツ波、これは生物環境に色んな影響を及ぼす、電磁波なんですけど、この「ＱＱテクノロジー」を例えば植物の評価であったり、あるいは環境の浄化、無農薬の農業、様々な分野に活用することでまさに先ほど言ったＳＤＧｓに合致するような色んな効果が上がってくるというふうに研究が進んでおります。東京大学においても 31 年度に「ＱＱテクノロジー」を題材とした「持続可能な自然再生科学研究」という講座が始まることになっています。このような形で研究がどんどん進んでいけば経済、「益田モデル」として商標登録出願中ですので良い効果が上がると思います。

	次に自転車に関しましては、３０年度は全国一の大会を開催できたり、オリンピックパラリンピックのキャンプ誘致の確定が進んだりしたことから、今後は更に裾野を広げる取組、一般の市民の方がより自転車に親しんでいただけるような取組みを進めていきたいと考えております。そこで「自転車活用推進計画」を３１年度と３２年度の２年間で色んな調査や研究を行って市民の皆様や有識者の方々のご意見を伺って、こういった計画を設定していきたいと考えております。 また大学との連携についても、連携協定をすでに締結しております島根大学、島根県立大学、大正大学、こういったところとの研究を継続する他、新たに東京大学、東洋大学、といった他の大学との連携も更に可能性を広めていきたいと考えております。 続いて高津川の映画については昨年秋に撮影が始まりました。つい先般、映画がいよいよ完成しまして東京で関係者への試写会が開催されました。私も出席して映画を実際に観てきましたけれども高津川を中心としたこの圏域の美しい自然を映像におさめて頂けたと共に中山間地域、地方が抱える様々な社会的課題を浮き彫りにした映画になっておりました。終盤になるほど盛り上がりまして会場も涙でむせぶ声もあちこちから聞こえてくるぐらい感動的な映画になっていました。 この映画はこの春から国際映画祭に出品されて、その後、秋口に国内での公開になる予定です。従いまして、この映画はまさにこの地域の情報発信をする絶好の機会になりますので連携をして発信する機会だと考えております。 空港については、東京線の利用運行が３１年度までは続きますが、３２年度以降がどうなるか、これはまさに今年の夏頃までには結論が出ることになります。３０年度の利用目標の１４万７千人の達成まで確定までにあと３日ほどになっていますが今もって微妙な状況です。やや、今持ち直すのは厳しいかな、もう少しのところで達成は難しい、というふうな状況です。しかし昨年度の１４万１千弱からしますと相当な伸びになっております。この勢いで３１年度の前半、更に良い搭乗率を達成して３２年度以降の石見空港の維持を実践したいと考えております。またあわせて大阪線の運行期間延長についても全日空等に要望していきたいと考えております。 次に山陰道につきましては、まずは工事中の三隅・益田道路が早く供用時期が示されるように働きかけをしていきたいと思います。 次の焦点になります松江～萩間、特に益田市内を走る須子、田万川間については現道の改良ではなくて別線バイパスで新しい道路が整備されるように要望していかないといけませんし、須子～田万川間については先般、３つのルート案が示されてアンケート調査が始まったところです。まずはこのアンケートの回収率を把握すること、そして益田市内の産業振興、観光振興等々、様々な効果が最もあがるルートが適切に描かれるようにしていきたいと思っています。 また、小浜～田万川間については別線バイパスの整備になるのか、現道整備になるのか、今後それを問うアンケートが行われる予定ですので、これもしっかりと別線バイパスの整備になるように要望していきたいと考えています。 最後に人材育成についてですが、３０年度で地区振興センターを廃止して公民館１

	本の体制になります。一層、公民館の機能を充実して地域づくりの担い手を進めていきたいと、地域の担い手づくりを進めていきたいと考えています。 また、地域の組織も美都地区でもすでにいくつかやってもらってますし、市内においても過半数を超える地域で設立がすすんでおりますので、地域を市が支える行政と、そして中間支援組織の設立によって多面的に支援していきたいと考えております。　　また大学やＮＰＯ等とも連携して若い人材をインターンや実習生として受け入れをしまして、これまでの未来の担い手という視点からではなく地域づくりの担い手という視点でこういった人材に今以上に活躍して頂ければ、そういった仕掛けづくりも行っていきたいと考えています。 以上のような考え方で３１年度は連携の充実と発信を続けていきたいと考えています。 美都地区に関連しまして３１年度の目玉的な事業としては、ゆずの搾汁施設の更新に関する事例があります。 １１ページの（3)「地域資源を生かした産業が息づくまち」の３段落目のゆずの産地化とブランド化を推進するため、ゆずの搾汁施設の改修に対して支援を行います。わずか２行しか書いておりませんが、これまでにゆずの搾汁施設が老朽化しており衛生面等で必ずしも充分な状況とはいえませんでした。それが為に更なる販売拡張がしにくい状況でありましたけれども、このほどＪＡさんにおいては県の補助金も活用されて施設を一新されることになりますので市としてもそれに対して支援を行っていきたいと考えております。 今ゆずに関しては完成品もそうですが加工品、市内で加工をしておられる「ゆずっこ」それからゆずのリキュール、ゆず、こういったものが順調に発売されておりますし、その他の加工については、これは残念ながら益田市外での加工施設になりますけれども色々な新商品もできあがっております。こういったゆずの独自産業化にも更なるはずみをつけていきたいと考えております。 道路整備については美都地区においても要望を頂いておりますので順次進めていきたいと考えております。 また矢原川ダムにつきましても先日、県と地元対策協議会の間で協定が締結されましたので、これまで課題となっていたことがクリアになったりすると考えています。そして県とも連携してこの事業が円滑に進むように支援をしていきたいと考えておりますし、またあわせて地域支援事業も県にしっかり要望して進めていきたいと臨んでいきたいと思っております。 まだまだ語り足りないところがありますけれども、まずは私からの施政方針と説明については以上となります。
４・市長との意見交換	（会長）どうもありがとうございます。それではこれから意見交換の１時間にしたいと思いますので、皆さんの方から意見なり要望等ありましたら出して頂けたらと

	思います。 （委員）先ほどの説明もありましたが、これを市民の皆様に示していくわけですけれども初めて聞くような「ＱＱテクノロジー」、「スマートヘルスケア」「ＳＤＧｓ技術」であるとか、すぐパッと「何かな？」と。少し注意書きを入れてもらうと助かるし、あってもいいんじゃないかな、と思いました。 そして「ＳＤＧｓ技術」も世界の目標で非常に高い、教育だとか環境だと、大きな目標があって、これを進化して益田市としては、どういう概念をもって進められるのか、ということをひとつお聞きしたいと思います。 それから私、先日都茂小学校に行く機会がありましたけれども、学校公開日で保護者の皆様も集まる機会で新聞にも出ておりましたが「都茂の未来を語る会」で５．６年生だったんですけれども、子供はこれから非常に大切であるし子供ってこんなに自分の住んでる町について真剣に思っているんだとつくづく感じました。お金を使わずに色んなことができるようなことを発表していました。小学校を使って温泉の足湯を持ってきたり地域のイベントをしたりとか、地域の大切なものを非常に想いをもっているのだなと思いました。少し市長さんへこういうふうに思ってます、というのを伝えてみたらいいんじゃない、と伝えてみたんですが。カタリ場というのもありましたけれども、こういうカタリ場の中心になって意見を述べられたらなぁと思いました。 （市長）まず施政方針の中で珍しいというか、非常になじみのない言葉が多くあったかと思います。今後も色んな場面でこの説明をしますので、しっかりと言葉の意味など捉えて頂けるように努力していきたいと思います。 それからＳＤＧｓ技術をどうして施政において意識するのかということですが、ＳＤＧｓ技術は２０３０年までに地球全体で１７の目標を達成しようと掲げられたものです。我々、自治体、あるいは益田市という地方に住んでいる者からしますと目の前の課題も当然大事なんですけれども、更に見方を広げて地球全体で人類全員がこういうことを目標にして進んでいこう、というものをもって実際に意識して歩んでおられる方もおられますので、そういった中で見たときに益田市の現状・問題、益田の市民の方々の状況はどうなんだろう、という目で見直すべきことが重要なんじゃないか、と思ったところです。 この１７の目標の中には例えば「飢餓をなくす」という文言があります。 今日本では飢餓とは殆ど無縁ですので、私は「飢餓を無くす」という目標についてはあまり意識することはないと思います。一方で例えば国家間の不平等、あるいは国内の中での不平等を規制していこうという目標になります。こうなってきますと国内間、国内外、国家間の中でいうと色んな面で例えばインフラ整備の遅れですとか、医療の体制が進んでいたり進んでいなかったり、格差が実際にあります。 そういったことを我々益田の市民が実際に困っているから直してほしい、というだけはなくて世界的に国内間の不平等、格差を是正していくということを世界中の人で養っているんだと、そういう考えをもちながら要望していくということが、要

	望にいろんな説得力をつけることになろうかと思います。また当然、一つの問題をやっていくのに市民全体が一つの目標を共有して意識を統一することが重要ですのでそういった意味でも世界中の人が共存されてＳＤＧｓ技術というのに基づいて色んな言葉を足していく、というふうに考えますのでＳＤＧｓ技術については国内での浸透は不十分ですけども、今はまだ一部の企業とか、政府だけしか強く意識していませんがこれからますます浸透してくるだろうと思いますのでいち早くこれを地方のレベルにおいて強く意識することが重要だと思っています。 それから美都町のカタリ場の話がありました。まさにカタリ場というのは経験されたように子供たちと少し年上の先輩が自分の体験談に基づいて身近な体験談を話し合う機会ですので子供たちとしても学校の勉強ではなかなか気がつかない、例えば親との会話、兄弟での会話だけではなかなか発見できないような色んな気づきもある、そういう機会だと思っています。 そこで色んな新しい発想とか意見が出てくるということはまさにカタリ場の効用ですので、そこで出た考え方というのを今度は子供たちが自分のものとしてまず身に着け、それから今度この子供たちが更に年下の子供たちに伝えるという取り組みを継続的して行うことが必要と思います。 実際にこれまでも大人から話を聞いた高校生が地元の中学生とか小学生にカタリ場を行うということがありました。それからカタリ場を経験した中学生が高校生になって更に年下の子供たちに今度は話す側としてカタリ場に参加するという、そういう循環が生まれてきています。そういう新たな気づきを今度は年下の人に話すという、そういうサイクルを今後とも強めていきたいと思います。 （委員）美都の搾汁機の改修についてありました。この中でも何回か話題になってやっと進んでありがたいなと思います。ゆずを管理する方も色んなところで問題があろうかと思いますが、そのへんのところも含めて考えて頂けたらなぁと思っております。作ってらっしゃる方には大変いいことだと思っています。 匹見峡温泉について出ていますが美都温泉につきまして 4 月からも営業時間などあるようですが、たまたま入る機会がありましてやはり温泉はいいなと思いました。地域の住民として利用するのが一番の協力できることかと思います。今の美都温泉の実態、おかれている状況をしっかりして頂くとともに私たちが協力できるということを練って頂きたい。利用しやすいように地域として市民として応援できることが考えられないか。皆で守っていかないといけないな、と思いました。 空き家対策について。これは考えなくても良い人もいるのでしょうが、私自身としても例えば 10 年経ったら考えなければならないような状況にあるのではないか、人ごとではないと。地域として見た場合、考えざるを得ないような、事故対策とかその辺も考えながら人口を維持していくという。どういうふうに利用して田舎の良さとか雰囲気を残して。壊さないといけないという時、どのようにして。 （市長）1 点目のゆずの搾汁機については、更新を確実に進めて頂けるようにしていきたいと思います。

	２つめの温泉施設について。今回匹見峡温泉の閉鎖の複数の引き金は株式会社ひきみ第三セクターが指定管理業務を継続できないと判断されたということです。この判断をされる前には市に対しても支援の要請がありましたが市の判断としては、どこかで持ち直すというのは難しいだろうし会社側としてもそういう考えをもっておられない、ということで更なる支援というのは難しいということで、最終的に会社が指定管理業務は返上しようという決心をされたわけです。従いまして温泉の閉鎖の背景には匹見峡温泉の利用者が低迷していて温泉の利用そのものが減ってきて会社経営も行き詰ってしまっていた。経営改善の取り組みがなされにくい、そういう体制になってしまっていた。２つの問題が合致した、というのを私は分析しています。 美都温泉を見ますと美都温泉の利用者の減少というのもみられますが、一方で運営する株式会社エイトについては主に美都の住民の方によって色んな努力をして頂いていると思っております。数年前にも額面でもって色んな意味で地域のサポートがなされているというように思っております。ただ、匹見温泉というのは一つの例でありまして、地域の重要な資源であるとしても、どこでも市が支えるかというのは難しい。従いまして一層住民の方には貴重な資産である美都温泉を維持して頂くための努力と協力をお願いしたいと思っております。 当然、市としても支えるための努力は致します。今、匹見地域の方からは温泉を再開してほしい、再開にあたって行政の努力の上に住民自身も支援をしていく、というような内容の要望書も頂いたところです。ある意味、地域の中山間地域を守っていくためには、行政の努力と住んでおられる住民の方々の努力と両方が相成っていかないと難しい課題になっておりますので、引き続き是非美都温泉の施設の維持のためにも声を頂きたいと思います。これについては、また具体的に総合支所ですとか美都温泉を所管する本庁でいうと産業経済部、観光交流課になりますが、そういったところと住民の方々との話し合いをさせて頂きたいということです。 ３点目の空き家対策については対策計画ができたところですが、この中で最も重要なのは建物関係に対する意識啓発のところです。建物、家屋を持っておられたか、住んでおられたか、こういう方々が適切に管理して頂けることが一番重要である。これらをなされないために、建物が老朽化して、場合によっては不衛生になったり危険な状態になったり、または治安上、問題がある。一番理想的なのはそうならないように適切に管理していくということだと思います。この意識啓発をまずは最優先に考えて、もう間に合わないという建物については何らかの努力で除去したり改善していくということを行政も力を入れてやっていく、というふうな対策となっております。空き家も益田市全域で問題になっていますので、この問題が更に拡大する前に手をつけていかないといけないと思っております。 （会長）温泉の話が出ましたのでお願いをしておきたいのですが、確か指定管理の期限が平成３１年だと思っています。市長さんの話にありましたように、エイトのこれまでの努力もありますし地域の方の助けもありますので、できる限り地元単独指名でお願いをしたいと思います。よろしくお願いします。 （市長）わかりました。

	（委員）私は全てに思うのですが小中学校の人数を改善せんといけんという動き。高齢者がどんどん亡くなります。葬儀に行く機会が３月あたり４回ぐらいあって…。人口拡大に向けての計画が本腰ではなかったのではないか。どういうやり方だと人が増えるんだとか、働くとことろ、住むところとか、そういったところを連携して行政も企業も地域の人も。人口が減ったら何もできないと思うんですよ。３月松江に行く機会があったが大田から東へ行くと益田に比べてどんどん家があって…非常に悲観した。 　ことごとく自治組織とかひとづくりとか先ほどのカタカナの話とかＳＤＧｓとかサイクリングとかインバウンドとか、そういうことも含めてそれが非常に良い引き金で人口拡大につながるのか。人口が多くなくてもいいじゃないかというと非常に恐ろしいことになる。人がいなくなったら。今負担を感じてる住民が何をしようにも、どうしようもないというような諦めに近い。二川なんかでも高齢者で自治組織をやるんです。これもやむを得ない。とにかく若い世代とか、Ｉターンとか Uターンにしても新しい人が住んでみたくなるような。産業も人も資源として大事にするとか。人口が増えたら何がしたいか、ですよ。増えることを目標として何をするか。このまま減ったら何がなくなるか。色んな角度で見たときに。まず人がいなければ何もできない。今や人がいないから働き方改革で人がいないと仕事もなくなる。人がいないから２４時間やめよう、とか働き方改革だとか、人がいてくれれば仕事は豊満とはいえなくとも仕事はある。益田市が一つになってよそに負けないぞ、というような知恵を与えてもらいたい。成功事例を見るのでもいいし。何とかならないか。一緒に考えてほしい。 　美都温泉の話も出たが美都温泉が一旦休業などになるととんでもないくらい被害がありますよね。二川地域全体が寂しい状態になるし業としてやっておられる人とか。仙道や都茂から見ると二川のことだから、というふうになるか、駅前から見ると美都町はとうとう温泉だめだったんだと、話題性になるくらいで、それこそ本気で考えてやろうという者は出てこない。やはり益田市、議員さんたちが県に対してどのように働きかけているか、県議クラス大臣くらいになると予算をどう組むか、住みやすくするため予算をどう配分するか。益田もそうだと思う。現状維持というが現状はずっと下がってきている。維持より高いところを見据えていかないと。人口拡大というところをなんとか。人口が増えていかないと美都温泉も５年以内にダメになるんじゃないかと思う。一般の方というのは世間をそんなに見ていないと思う。 （市長）人口について言うと益田市の定住人口、市民課に登録している人口が一般的な人口ですので、これを将来推定してみると詳しく見れば見るほど悲観的な数値しか出てこないと思います。 　では改善できるかというと、まずひとつは出ていく人と入ってくる人の差、今は出ていく人が多いわけです。これをまずはトントンにするようにもってこないといけないわけです。現状では若い人が市街へ出ていって中には一部帰ってくる人もいますが帰ってこないままというのが多いということです。今は出て入ってくる数のサイクルよりも生まれてくる子供と亡くなっていく方の自然減の方が深刻な数字になっています。これについては、じゃあ今の若い人が結婚して子供を２人３人４人産めばいいかというと実はそういうわけではありません。益田市は出生率が１．８

	くらいで全国的にみればかなり高い数字です。では人口維持で必要な数字は２．０７。ここにいけば人口はトントンになるのかというと、実はそうではありませんで、現状若い人の数よりお年寄りのほうが多いです。いくら若い人が 2.07 人子供を産んでも相変わらず亡くなる人の数の方が多いわけです。そう考えますと、どうひっくり返しても何千人単位で人をつれてくるような施設でもない限り今人口を増やすことは本当に不可能です。これも明らかですので私としては人口が少なくなっても維持できる町をどうやって作っていくのかというのを考えています。 空き家対策もそうですね。少ない人数でこの地域を支えていくための仕組みを作っていきましょうということです。 もう一つは定住人口だけが人口なのか、ということです。以前から交流人口というものがあります。つまり旅行であったり出張であったりしても益田市に来てくれる人、一時的であっても益田市に来てくれる人を増やせば物を買ってくれたり食べ物を買ってくれたり宿泊してくれたりお金も落ちるだろう。そうすれば産業が一定程度維持できるのではないか。 最近ではこれに加えて定住人口、交流人口に加えて関係人口という言葉があります。これは住んでいないが継続的にこの地域に関わりをもって関心を持っていたり時々来てくれたり、そういう人のことです。これをどんどん増やしていこうというのも書いております。 この取り組みが大学との連携であったりＩＯＴとかＱＱテクノロジーという実証実験をここでやってもらおう、ということであったり、あるいは自転車の大会を誘致したりアイルランドのチームのキャンプをやったり、ということです。つまり密接な関わりがある人を増やしてこの地域に活気を維持してもらうのを助けてもらおうという考えです。これについては実際に取り組んでいますが益田市で関係人口づくりというのは相対で見ればそこそこ他の街よりも先を進んでいるところが多々あるんではないかと思います。実際に視察に来られたり国や県から表彰を受けたりという取り組みの地域が多々ありますので。これからは見方を変えて人口が減った場合にどうこの地域の活力とか、どうこの地域の生活を維持していけるのかを知恵を絞らないといけないんじゃないかと思っています。 それと企業についても企業活動というのは、決して益田市内だけではありません。市場を他に求めて売り込みをするとか、例えばお客さんをひっぱりこんでくるとかいうこともできますし。もっと言うと、空港もあって羽田空港に直通で羽田空港は国際空港と、非常に大きな空港ですので、世界との行き来も一昔前に比べると非常に楽になってきています。そういうのを考えると、市場を世界に求める、世界を相手にするということだって不可能ではないわけです。いきなり世界を相手にしてどうするんだと言われるかもしれませんが、不可能か可能かで言うと益田市の人口を増やすよりよっぽどこちらの方が可能性があるわけです。そういった視点を持たないといけないかな、と思います。田舎に住んでてそんなのできるか、というのではなく、どういう可能性があるのか、といった場合にある可能性は全て追及しないといけないわけです。そういった意味でも始めに帰ってくるのですけど、世界共通のものさしで物事をみていこうというのが、我々だけの近いところだけをみたもので考えて物事を言ったりするのではなく世界の中で物事を見ていこう、ということがこの地域が残っていくための本当に数少ない手段の一つではないかな、と思います。 （会長）時間がきましたのでこの辺で意見交換を閉じたいと思います。ありがとう

	ございました。
5. 報 告 事 項	
①矢原川ダム建設事業について	（事務局）矢原川ダム建設事業について ３月１５日にダムの協定ということで地元協議会、それから島根県が締結をされております。この協定につきましてはダムの買収する土地等の単価の決定ということで協定が終わりましたのでこれから用地買収がされると。用地買収がされればもっと具体的に入っていくと。ダムの完成までおよそ１０－１５年の期間がかかると聞いております。
②美都温泉について	（事務局）美都温泉について ２番目の美都温泉について、これは支所長からもふれさせて頂きますけれども、新聞で皆さんも見られたかもしれませんが、これまでも利用者が減少してきたということで地域協議会の方でも説明をさせて頂いているところでございます。市の方と致しましても平素の経営改善の計画等など、どれだけの支援が必要か、また支援できるかを検討致しまして、31 年度指定管理の上乗せを３１年度の予算で確定したという状況になっています。 入浴者ですが、今年は降雪量が少なかったということで当初５％減少を見込んで、今年度の場合は８６，５００人と予想しておりました。１月２月、雪が少なかったので前年を上回る利用者で推移致しまして、およそ９万人くらいじゃないかなと思うのですが、それぐらいの利用者数だと思います。率でいいますとやはり３．２％の減少はしているということで、そういう面では依然、厳しい状況ではあるということですが、市としても支援を３１年度も考えているということでございます。
③美都分遣所消防車について	（事務局）美都分遣所消防車について（資料２） 昭和６３年に美都分遣所に配備された消防ポンプ車の更新時期がきたということで新たに更新をされまして３１年３月２６日から運用を開始ということになっておりました。車がきたのはもう少し前からきているのですが、それについては事前訓練というところで走ったり操作の訓練で入っていましたけれども実際に稼働し始めるのが２６日ということです。今回は水槽を備えているので以前のポンプ車に比べると初期放水が迅速にできるのではないかということです。 （事務局）質問等ありますか。ないようでしたら次の地域コーディネーターの活動報告について入りたいと思います。
④地域コーディネーター活動報告について	（美都地域コーディネーター）地域コーディネーター活動報告について（資料３） お忙しい中、貴重なお時間を頂きましてありがとうございます。平成３０年度　年間事業・活動報告をさせて頂きます。 年間を通じて取り組んだ事業と致しまして、情報発信、交流人口の拡大、定住対策、特産品等の販売拡大、集落対策、地域資源の発掘と利用、その他ということで今年も活動をさせて頂きました。 １．情報発信 ■ＳＮＳを活用した情報を発信する

■Ｆａｃｅｂｏｏｋページ　～みとっこ暮らし～で情報発信

（P3）まず、情報発信ということでＳＮＳ、ソーシャルネットワーキングサービスを活用した情報発信ということでフェイスブック、みとっこ暮らしで情報の発信をしております。平成３０年４月１日から今年の３月２５日まで２０８回更新をしております。主な発信内容と致しましては美都町内外の行事・イベントを開催前の告知やイベントの様子を発信しております。美都町の地域資源の情報と致しまして特産のゆずであったり、ちょうど城山桜がやっと咲き始めたということです。温泉も今年３５０万人、入館者が達しましてその中で情報の発信をしております。また、より発信したい情報につきましては広告宣伝という、より多くの人に情報を見てもらえるということでそちらの方も使って色々情報を発信しました。

■マスメディアでの美都地域の情報発信
■ＦＭラジオやテレビ・新聞を通しての美都町に関連する情報発信の補助活動

（P4）情報発信ということでマスメディアでの美都地域の情報発信ということでFMラジオやテレビ、新聞を通して美都町に関する情報発信の補助を行いました。
左側になりますが昨年１１月に石見地域でも体験プログラムをされている「いわみん」さんというので美都町の特産のゆずを使った「ゆずシロップ作り」をしました。
右側に関しましては、毎年美都温泉の湯本館でゆず湯が始まったときにはＮＨＫさんとひとまろさんが取材にくるのですが、今年も朝の時間、誰もいなかったので取材をさせて頂きました。やはり特産品とかＴＶに映ると、例を出しますと益田の真砂豆腐さんでＴＶに映ると問合せとかも多いのでやっぱりマスメディアに取り上げられるというのは一つ発信の強みでもあるので、これも進めていけたらなと思います。

２．交流人口の拡大
■美都地域で行われる交流事業の調整役
■美都町の観光や産業等の地域資源を活かした、県内外からの人を呼び込む交流事業の支援活動

（P5）美都町で行われる交流事業の調整役ということで美都町の観光や産業等の地域資源を活かした、県内外からの人を呼び込む交流事業の支援活動を行いました。両写真の方は年 2 回ですが、ボランティアホリデーといって左側が今年美都温泉さんと二川のぬくもりの里さんと新しく始めたボランティアホリデーです。

右側は毎年恒例の「柚子収穫ボランティアホリデー」を開催しました。今年は二川地区の右田勇さんの土壌で計量をして頂きまして千葉県から 1 名、大阪府から 1 名の２名の方が参加をしました。この方々2 名共、毎年というか結構な頻度で美都町に来られていましてどちらかというと美都町ファンの方です。ゆずの収穫に関しても常連さんなので右田さんも助かったと言われましたし、参加者の方も「今年秋にまた来たい」と、ぜひ企画してほしいと言われています。交流事業の中でも食事は仙道の地域の人に作って頂いたり伝統芸能の石見神楽を三谷社中の方に上演して頂

	いたりとか本当に地域の交流に関して支援を頂いているなぁと思っております。 ■美都町の魅力の再発見と新規開拓を目的とした交流事業の企画・支援 ■「いわみん」の美都地域での体験プログラムの発掘と活動実施・支援 （P6）左から「ゆずシロップ体験」を１１月４日に行いました。参加者としましては今回は広島市内と山口市内小郡の方がおられ県外からも参加者がありました。支所の裏側にあるゆずの木を切って実際に支所の裏側でゆずってどんなものなのか、というのを子供たちに体験してほしかったので、ゆずってとげがあるんだな、と初めて知ったお子様、大人の方もいらっしゃいまして体験と簡単に作れる「ゆずシロップ」を作りました。当日ゆずシロップについては、持ち帰ってもらって事前に作ったゆずシロップでサイダーですとか、お湯で割ってもらって飲んで体験をしてもらいました。 隣が「ぬくもりの里二川」の方で行われました「お米とたき火を楽しむ一日」ということで、やき米と温泉モーニングとかで実施されております「うずめ飯」というのを実際に作る体験をしました。こちらは途中からだったのであまり関わることはできませんでしたけれども、参加者の方は７名ということです。隣が「親子でつくろう！ジェルキャンドル教室」ということでこれは私が担当しました。参加者が定員１０名に対してを１２名。見て楽しむというのもありますが最近災害が多いのでキャンドルということで防災の意にも使用できるかなということでこちらの活動もしております。 （P7）「しまね田舎ツーリズム」で美都地域の親子プログラムを実施・支援を行いました。「しまね田舎ツーリズム」の親子体験キャンペーンなんですけれども３/１６から３/３１の２週間で行われております。 先日終わったプログラムなんですけれども左から「いちごのデザート作りと料理体験」ということで仙道の「しまね田舎ツーリズム」で支援を頂いております堀さんに先生をして頂きまして美都のいちごを使ったイチゴのロールケーキをメインに行いました。参加者が定員が約１０名だったのですが申込から約１日で申し込みが埋まる人気のプログラムで昨年も人気でした。やはり特産を使うプログラムということで益田市内から参加者が流れておりまして引き続き継続していければと思っております。 真ん中が昨年度実施しました「ミニ神楽面の絵付け体験」を行いました。都茂地区の河野さんの支援を頂きまして元々公民館でやっていた神楽面の体験を元にプログラムを実施しております。こちらも定員が満席で参加者１１名、体験者１０名、見学者１名なんですけれどもこちらも人気のプログラムとなっております。 最後に「ゆずプリンとスイーツピザ作り体験」ということで、ぬくもりの里二川さんとよもぎの会さんで作られてております「ゆずプリン」の製作をしました。実際に小さい子供さんもいらっしゃいますが本当に楽しんで体験をされておりました。 ■学生と一緒に地域課題へ取り組む企画・支援 ■石見地域紹介ツアー実施と都市圏の大学生との意見交換

（P8）石見地域紹介ツアーの実施と都市圏の大学生との意見交換ということで行いました。
左側ですが島根県立大学のゼミ生の方が地域の研究授業ということで石見地域内でテーマを決めて一緒に地域の問題解決をしようということで取り組んでおられる授業です。この時は大神楽の澄川さんのゆずの土壌に見学等、道の駅サンエイト美都さんで、ゆずの特産品の商品の見学、ゆずっこなど試飲をしました。結果的に採択で決定にはならなかったので、この授業はできませんでしたけれども今後も大学生と繋がりを持ちたいなと思っております。

右側ですが東京の大正大学さん、今益田市と提携をされております。こちらも地域創生学部の学生さんからヒアリング、意見交換を行いました。益田市としては彼が取り組んでいるのが情報発信というのをテーマに益田市をどうやって広めたらいいかというのが研究テーマということで、美都町ではこういうふうにしている、とか、自分もどうやってやっているか、とか。逆に彼から見た益田市ってどんないいところがあるのかな、と聞きながら意見交換をしました。若い方から意見をもらうことで僕も違う目線で見ているところもあると思うので色々聞けて良かったなと思っています。

３．定住対策
■県外へ定住・移住希望者のＵＩターンフェアに参加
■東京・広島会場の市町村ブースで移住・定住希望に対しての相談対応

（P9）続きまして定住対策ということで「定住・移住希望者のＵＩターンフェア」に参加しました。東京と広島と参加をしました。
東京では今回は「ふるさとしまね定住財団」が主催なんですけれども東京２日間開催というのが今年初めてでして、総来場者数１３０２名で益田市ブースが３４組４０名の方が来られております。広島フェアに関しましては２５３名、益田市ブースは１１組１７名が来られました。東京に関すると石見空港がありますので、そちらを使って来れるというのが益田市の強みであるということもありますし実際に益田にUターンが決まっている人も中には相談の方もいらっしゃって、ゆっくりと話をすることができました。

その他にもお盆の時期と年末の時期に萩・石見空港で定住ＰＲということで、こちらも「ふるさとしまね定住財団」さんと西部県民センターさんと市の職員と一緒に飛行機の搭乗者の方に定住資料等を渡す取り組みも行いました。定住対策ということで美都町内の住居、空き家の相談と見学を行っております。美都町の暮らしの体験ができる場所の確保・民泊や体験プログラムの造成ということで進めました。左側ですが「しまね田舎ツーリズム」が主催する宿泊事業法の講習会と衛生講習会を含んだ研修会だったんですけれども昨年 6 月に民泊の新しい新法が改正されまして、そちらがまだ住宅宿泊事業法でのこちらの取扱いがこれまで「しまね田舎ツーリズム」で行われてきていましたが東京オリンピックですとか今後のインバウンドの関係で法律が大幅に変わって、なかなか今までの現行では島根では受け入れない状態となっております。今美都町民泊の方にもご相談しまして今後どうするのかと

	いうこともあって昨年12月が移行期間だったんですけれども美都町の民泊としては登録上の問題です、とか、高齢になったということもあって民泊を今後実施しないということでお話をしました。そのかわり今後は日帰り体験などで協力を頂くということでお話をしております。 ■美都町内の住居・空き家相談と見学 ■美都町での暮らしを体験できる場所の確保・民泊や体験プログラムの造成 （Ｐ10）右側になりますが空き家バンクの見学を行っております。美都町の空き家バンクの登録件数なんですが都茂地区に２件、丸茂が１件、合計３件の登録がされております。平成 30 年度、空き家バンクに入居された方が約２件ございます。3月に入って空き家バンクに新規で登録をされる物件の見学をしまして、また増える可能性があります。空き家を巡るツアーですが、昨年９月に実施しまして実際に美都町の空き家を美都地域にいらっしゃいます益田暮らしサポーターの方と実際にＩターンで来られた方と一緒に参加して空き家を巡るツアーと、今事例で小野地区の空き家バンク制度ですとか、こちらの話を聞いて勉強会をしました。実際に空き家も増えてくると思うのですが、なかなか改修が難しいところもありますし、より良い状態を保つために色々と自治会なり市の方も連携をとりながらやっていければいいのかなぁと思います。 ４．特産品等の販路拡大 ■美都町特産品の都市部への紹介と商品の販売・宣伝支援活動 ■人が集まる場所への美都町特産品の販売・支援 （Ｐ11）つづきまして特産品等の販路拡大ということで美都町の特産品の都市部への紹介と商品の販売・宣伝支援活動を行いました。左側が昨年、自転車の全国大会が北仙道でありまして、そこでゆず商品の販売のお手伝いをさせて頂いております。 右側は島根ふるさとフェア、こちらは広島で行われておりますけれども、こちらも美都町の特産品の販売ですとか会場準備とかしております。 その他にも近畿美都会、大阪で開催され特産品の販売ですとか、先日益田駅に初めてきました観光列車の「あめつち」でも２日間販売のお手伝いをしております。またキヌヤの美都フェアでも販売支援をしております。 ５．集落対策 ■各地区振興センターの行事・イベント等の後方支援 ■各地区振興センターで行われている行事・イベント支援 （Ｐ12）集落対策、各地区振興センターの行事・イベント等の広報支援ということで各地区振興センターで行われている行事・イベントの支援を行っております。主に文化祭とか仙道でいうとふるさと塾、学校でいうと通学研修や宿泊研修のお手伝いをさせて頂いております。

６.地域資源の発掘と利用

■美都地域にある既存の観光資源の活用と再発見

■美都温泉と二川地区の体験プログラムを組み合わせたボランティアツアー

（Ｐ13）美都地域にある既存の観光資源の活用と再発見、美都温泉と二川地区の体験プログラムを組み合わせたボランティアツアーを行っております。冒頭でも話をしましたけれども、ボランティアホリデーの美都温泉を活用したボランティアができないかな、と考えて実施しました。このヒントになったのが「まちづくり」という本がありまして、その本に古い旅館を掃除するかわりに宿泊ができるというのを見て温泉も掃除したら温泉もただで入れるのか、というのを想像しながら実施しました。二川地区は体験事業というのが豊富にプログラムがあるので、できたらそういうのをどんどん増やしていくために今回実施しました。体験内容は、まき割り体験、ピザを焼く、石窯に火入れ、実際に自分で作るピザを練ったり作ってみたり郷土飯のうずめ飯を一緒に作ったり、地域の方と交流をして色んな話をしてもらうようにしました。また美都温泉、湯元館のほうではバックヤード体験ということで浴槽のお掃除体験を企画したり今回は人数が少なくてできませんでしたが館内の装飾とかポップなども作って頂きたかったです。食事に関しては地域の食材を使った朝食ということで野菜やお米、先ほど言った郷土料理のうずめ飯をお昼に食べて頂きました。石窯を使ったピザで地域でこういうことができるというのを体験してもらいました。参加者としては２名で東京から１名、広島から１名、この１ヶ月前に西日本豪雨災害がありまして実際に広島から参加を希望する方も最初は多かったのですけれども災害が心配ということで参加者が減ってしまったのが残念だったのですが、またこういう企画をして人を増やしていけたら良いなと思います。

■地域の若い世代と一緒にまちづくり

■都茂地区の若者の会「もてつも」への支援と参加

（Ｐ14）地域の若い世代と一緒にまちづくりということで都茂地区の若者の会「もてつも」への支援と参加を行いました。「もてつも」略称ですけれども「もてなす都茂心」ということで私が大阪から島根に戻るまでこの活動は実施されていまして再度都茂地域の若者が十数名集まって取り組みということで自治会長さんから色んなお話を聞いております。本当に今、若い世代というのがどんどん前に出て行くべきなのかなぁと凄く感じています。地域の中で自分たちができることを再発見できるように自分も支援をしています。その中で色んな話の中でまつりについての学習会というのも実際に話を聞きました。都茂のお宮さん、宮司さん、渡邉さんから祭りについての説明や祭りで行われる神楽についての勉強会に参加して、その中の過程で都茂の秋の例大祭に参加したいとか都茂の文化祭に出店、ステージの参加をしました。その中で自分も一緒に情報発信で参加をしております。本当に若い世代が自分で地域を楽しむために私自身も支援をしていけたらなと思っております。

７．その他

■勉強会・研修会への参加

■定住・しまね田舎ツーリズム等の研修会で自身のスキルＵＰと人脈作り

（Ｐ15）勉強会・研修会の参加をしました。定住・しまね田舎ツーリズム等の研修会で自身のスキルＵＰと人脈作りということでしまね田舎ツーリズムさんでは衛生講習会、宿泊事業法の講習会に参加しました。真ん中にあります「いわみん」の報告会ですけれども、こちらは多い時で６０以上のプログラムが開催されております。その中で各地区の実践者さんが集まって報告されるのですがその中で良かった点とか悪かった点とか情報共有して今後良いプログラムができるようにということでしました。最後右側の体験プログラムホスト勉強会ということで「ＴＡＢＩＣＡ講習会」に昨年 12 月に参加をしました。「ＴＡＢＩＣＡ」というのが株式会社ガイアックスさんというのが「ＴＡＢＩＣＡ」をされていまして先日３月２４日に東京で益田市と協定式をされていると。この「ＴＡＢＩＣＡ」というのが実際に自然体験ですとか街歩きですとかワークショップをされてるサイトがあり、そちらを運営しております。今後、これに今までやっている体験プログラムをここで販売できればいいかなと考えておりまして今年中に美都地域でも取り組めるように進めていけたらな、と思ってます。

■行政・その他地域団体の連携
■地域振興課や地域団体と連携をしながら行事・イベントの活動支援

（Ｐ16）地域団体の連携ということで地域振興課や地域団体と連携をしながら活動や支援を行いました。第２４回近畿美都会で大阪の方に行きまして特産品の販売ですとか集合写真を撮らせて頂いております。真ん中にあります、毎年参加しております、萩・石見空港の冬至の日のゆずプレゼント、今年は東仙道小学生と一緒にプロジェクトを行いました。右側、株式会社キヌヤさんの方と１２月と３月と美都フェアを行っておりこちらも支援を行っております。

■益田市全体でつながりの場を作る支援
■Ｉ♡ＵますだＦｕｎミーティング　～みんなでお話しませんか？～
益田市ＵＩターン大交流会の支援

（Ｐ17）平成３０年度益田市ＵＩターン大交流会。実行委員と今回メンバーに入りまして支援の方をさせて頂きました。昨年９月から１１月、内しまねで約６回くらい会議を行いましてＵＩターン者として益田市のＵＩターンサポート宣言企業さん、益田市の暮らしサポーターの方が１１６名の中に参加者が入っているんですけれども、こちらの方にも楽しんで頂くとか、企業間の中でもつながりができてほしいという思いで支援をさせて頂いております。当日もグループワークということで「益田市ってどんなところ」だったり「どこがおすすめなのか」など話ができました。また会や運営のサポートということで写真を撮ったり色々とさせて頂きました。この会の美都町の企業さんにも参加して頂いてアンケートの方でも評価の方が高かったと思います。来年も益田市全体で活動ができたらなと思っております。今年でコーディネーターも３年になりました。体は一つなのでできること、できないことがあるのですが、今後の目標としては地域の資源を活かした体験プログラムを増やしていけたらなと思っているところです。というのも民泊が今 0 件になって、でき

	れば日帰り体験で受け入れて頂けるところを増やして温泉の利用とか美都自然の森とかそこに宿泊を伴うものにしていければなぁというのを今後重点を置きたいというところで来年度も引き続き美都の活動をしていきたいと思います。 （会長）大変でしょうが頑張ってください。
6. その他	（事務局退職者）　挨拶
7. 閉会	（会長）それでは本日はこれで閉会致します。 ― 午後3時30分終了 ―
	第７4回地域協議会の顛末を記載しその相違ないことを証するためここに署名する。 平　成　　年　　月　　日 議事録署名者 同